

花ちゃん、オー君、モンタ博士のわくわくドキドキ園立ててく3

国立市立国立第七小学校

平成28年2月26日 NO.94 (294)



花ちゃん 「あ！これは、ツリフネソウですね。てくてくの NO143号ごうにありました。

モンタ博士おくさまの奥様えがかいた絵おぼものっていたでしょ。オー君おぼ覚えている。」

オー君 「もちろんさ。よくおぼ覚えているよ。おいら、あのツリフネソウの絵えがとてもお気に入りいきだったから、色エンピツでぬり絵えしたもんね。」

モンタ博士 「それは、うれしいね。これからもいっしょうけんめいにぬり絵えを楽しんでごらん。ところで、ツリフネソウはどんな色いろだったかな。」

花ちゃん 「ちょっと赤あかみがかかったむらさき色いろでした。」

オー君 「そうか、むらさき色いろの花はなと虫むしとの関係かんけいですね。」

モンタ博士 「むらさき色いろの花はなには、よくミツバチなどのハナバチが来るんだよ。」

オー君 「ミツバチなどは、女王バチじょおうを中心ちゅうしんにした家族かぞくをつくるんだよね。社会性昆虫しゃかいせいこんちゅうともいわれて、とても頭あたまがいいいでしょ。」

モンタ博士「そうなんだ。昆虫の仲間としては、とても進化したものなんだよ。」

花ちゃん「とてもかしこくて、マナーもよくて、アブのようにあっちこっちふらふらとしないんですね。」

モンタ博士「同じ花を見分けるくらい頭がいいし、飛ぶ力もとても強いんだ。」

オー君「たくさん飛べるということは、遠いところの花にも飛べるといことですね。」

モンタ博士「自分だけでなく、家族の分まで蜜や花粉を集める働き者だということだよ。」

花ちゃん「それはそれはすばらしいですね。花にとっても助かりますね。」

モンタ博士「それだけではないんだ。むらさき色の花をよく見てごらん。何か気がつかないかな。とくに花の形やつくりがちゅうもくしてごらん。」

花ちゃん「うーん。そうですね。花の形・・・あ！そうだ。むらさき色の花って、けっこう複雑な形のものが多いいですね。」

モンタ博士「この複雑な形というのが、昆虫たちにとっては、テストみたいなもので、頭のかしこさをためられているのさ。アブやハナムグリなどは、ぶら下がったり、細い場所に頭をもぐりこませたりすることもできないのさ。」

オー君「ハナバチたちってすごい能力をもっているんですね。」

モンタ博士「ほらほら、見てごらん。花にもぐりこんでいるハナバチたちがいるよ。」



ハナバチの能力の高さについて

ハナバチ類は、優れた視覚能力をもち、蜜標という蜜のありかを示すマークを目当てに飛び回る。そして、強い力をもち、筒形の花や潜らなければならない形の花を押し開いては、蜜や花粉を自分のものとしているのである。なお、花粉は幼虫のたんぱく質として大切な餌なので、効率よく集められるように、ハナバチの体には毛がたくさん生えており、また、アクロバットのように花に逆さにぶら下がる必要があるの、それを支える太くて力強い足ももっている。